

アメリカにおける大学の家政教育カリキュラムの比較研究 (第4報)

○田崎裕美* 東珠実*² 柿野成美*³ 古寺浩*⁴ 鈴木真由子*⁵増田啓子*⁶ 吉本敏子*⁷ 村尾勇之*⁸(愛知大短大(非)*、福山女学園大*²、(財)消費者教育支援センター*³、金城学院大短大*⁴新潟大*⁵、常葉短大付属環境システム研究所*⁶、三重大*⁷、東京家政学院大*⁸)

【目的】本研究の目的は第3報の「アメリカ家政系大学の学部組織、カリキュラムの設立理念・目的の比較研究」に引き続き、1995年のアメリカ家政系大学組織へのアンケート調査時のデータをベースとして、2000年時のアメリカ家政系大学において Home Economics、Family Consumer Sciences、Human Ecology、Human Environmental、Human Sciencesの各名称系において、どのような学部・学科組織で、どういった家政教育カリキュラムが設置されているのか、その実態を明らかにする事にある。

【方法】① アメリカの家政系大学に関する1995年アンケート調査時のシラバスデータと2000年時の公開資料を通じて、設立理念・目的に基づき、どのような学部組織が設定されているかを名称系毎に明らかにする。② 同データを通じて、各名称系の学部・学科において、どういった家政教育カリキュラムの内容が設置されているかを明らかにする。③ 学部学科の名称改正に伴い、家政教育カリキュラムがどのように変わったかを明らかにする。

【結果】①アメリカにおける家政系大学の学部・学科では、職業教育に対応した多様なコースが選択できるシステムがみられた。②Accreditationを受けている大学では、家政系科目を中心としたコアカリキュラムが設置されていた。③1995年以降に学部・学科の名称改正を行った大学では組織や科目の名称が変更されていても、家政教育カリキュラムに大幅な変化はあまり見られなかった。